

ビジネス視点の防災 浜松湖北高 専門家と具体策

ビジネス視点の防災とは 浜松湖北高 専門家と具体策学ぶ

LPガス販売「エネジン」(浜松市中央区)は8日、自然災害などの緊急事態に備える事業継続計画(BCP)などを学ぶ防災講座を浜松湖北高(浜名区)で行った。同校商業科3年生42人が、ビジネスの視点から防災事業を考えた。

同社の防災士杉本真一さん(48)らが講師を務めた。BC

Pの目的を、命を守ることをゴールとする防災計画と比較し、人命や財産の保護と同時に事業の継続や速やかな再開を図るものと説明。自然災害のリスクが高まる中、具体的な行動計画の有無で復旧までのスピードが異なることを示した。

生徒は来年1月まで防災事業者を招いた学習を進め、商



業的観点から災害に強いまちづくりに理解を深める。今回が学習の初回となり、杉本さんの解説を交えて津波実験や2011年の東日本大震災の映像を見て、自然災害から命を守るすべも学んだ。

BCPの目的や自然災害から命を守るすべを生徒に教える杉本さん(右) 浜松市浜名区の浜松湖北高

弊社エネジンは「地域密着型の総合エネルギー企業」として、災害に強いLPガスの供給や地域貢献活動に注力しております。今回の静岡新聞の記事に記載されていますように、地元の浜松湖北高校の生徒の皆様に、ビジネス視点での防災(BCP)についてお伝えできたことは、次世代を担う若者の防災意識向上に繋がる大変意義深い取り組みだと感じております。

災害時のエネルギー確保は、住民の皆様の命と暮らしを守る喫緊の課題です。地域の未来を担う子どもたちが、人命保護だけでなく事業継続の重要性を学ぶことは、災害に強いまちづくりに直結します。

エネジンは今後も、エネルギー供給企業としての専門知識を活かし、地域の教育機関と連携しながら、安全で安心な地域社会の実現に向けて積極的に貢献してまいります。

令和8年(2026年)7月10日(金) 静岡新聞

